

特別支援学校(肢体不自由／重複障がいグループ)美術科学習指導案

1. 題材名 見つけた！ マイ・ヤナイハラ
2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》1960-61年
ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵
3. 実施学年 特別支援学校高等部

4. 学習指導要領との関連

高等部第1段階 A表現ア(ア)(イ)、B鑑賞ア(ア)、[共通事項]ア(ア)、(イ)

5. 題材の概要

事前学習①(学校)では、生徒自身の「何だろう？」を引き出すために「シルエットクイズ」でコラージュ制作を行う(コラージュ作品I)

《ヤナイハラI》をシルエット(様々な色、大きさ)で提示する。シルエットの向きを変えたり、背景画像とコラージュしたりすることで、対象を見つめ、感じたり考えたりしたことを表現方法を工夫して表すことができるようにする。また、構想を練ることで、造形的な視点を理解したり、見方や感じ方を広げたりできるようにする。

事前学習②(美術館講堂)では、事前学習①の振り返りとして、コラージュ作品I(平面)と《ヤナイハラI》のレプリカを比べる。レプリカを回転台に乗せ、回転させる。触れることで、作品の造形的な特徴である感触や凹凸、ボリューム感、大きさなどを実感できるようにする。また、事前学習①で制作したコラージュ作品Iとレプリカとが繋がるよう、各生徒が制作したコラージュ作品の《ヤナイハラI》画像の方向に合わせるなどしてレプリカを提示する。事前学習①の振り返り後、美術館における鑑賞学習についての説明を行い、生徒が鑑賞に親しむことができるよう美術作品への関心を高めるとともに、美術作品などに表れている創造性を大切にすることを養う。

美術館の展示室では、《ヤナイハラI》を鑑賞する。作品を見ながら、再度、背景画像または背景色を選び、《ヤナイハラI》画像を背景上に配置する。(コラージュ作品II)

コラージュ作品Iとコラージュ作品IIの、背景の選択と《ヤナイハラI》画像の方向の相違点に着目することで、生徒のイメージや認識の変容を確認し、評価する。

事後学習(学校)では、美術館での活動の様子を動画・画像で振り返り、コラージュ作品Iの作品に触れながら、コラージュ作品IIを発表することで、生徒自身の気づきを促す。

6. 題材の目標

- 作品の形等から着目しイメージを広げ、コラージュ作品を制作したり、作品の立体感や感触・展示の様子などを確かめたりすることで、美術作品に対する見方や感じ方を広げる。
- 美術作品と共に、美術館の空間や雰囲気を体験したり、館内施設を利用したりすることで、美術作品や美術館への関心を持つ。

7. 題材の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 作品写真の方向を操作する、作品のレプリカに触る、作品や展示の様子を確かめるなどして、形や立体感、感触などの造形的な視点に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の立体感や感触などを体感することで造形的な特徴を捉えたり、作品鑑賞によってイメージを広げたりすることができる。 作品のコラージュ制作によって自分の考えを表現したり、互いの考えを伝え合ったりすることで多様な考えに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習及び美術館における鑑賞学習を通して、見方や感じ方を深め、コラージュ制作を工夫しようとするなど主体的に学習活動に取り組もうとする。

8. 準備物

指導者： ○ タブレット端末：

小さな画面でも画像や変化を認識できる場合に使用。画面を近くで見ることができ、容易に写真を合成し、全体像を確認しながら取り組むことができる。

学習記録にも使用し、生徒のコラージュ作品Ⅰ / コラージュ作品Ⅱの画像記録と美術館での鑑賞学習の動画記録を行う。

○ プロジェクター/スクリーン：

一定の距離があっても大きな画像で全体を認識することができる場合に使用。投影すること（光）で印象に残りやすい。

○ 作品（《ヤナイハラⅠ》）画像を印刷した紙（色・大きさ数種類）：

近くで見たり、実際に手に持って操作したりすることで認識し易い場合に使用。操作し易いよう印刷した作品画像をスチレンボード等に厚みをつけて貼りつけておく。

○ 学校生活にちなんだ画像（数種類）

○ 生徒制作作品画像等

○ 色画用紙（生徒の好む色、美術館の壁の色や雰囲気イメージさせる色）

生徒：なし

9. 授業展開（全5時間）

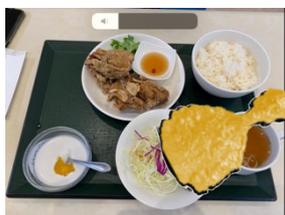
	学習活動	指導内容および留意点
1 限	<p>【学校】</p> <p>①出欠確認及び健康観察</p> <p>②説明</p> <p>③制作前の準備運動「ちょきちょきダンス♪」「にぎにぎスクイーズ」</p> <p>④シルエットクイズ～何に見えるかな？～</p> <ul style="list-style-type: none"> 《ヤナイハラⅠ》のシルエット画像から、色（元の作品色を含む）・大きさを選ぶ。 台紙の色画用紙の色（生徒の好む色、美術館の壁の色や雰囲気をイメージさせる色など）を選ぶ。 <p>「何に見えるかな？」</p> <p>「どれくらい大きい？」</p>	<p>（美術室 全体指導）</p> <p>③④毎時取組んでいる肩関節、上肢、手指を動かす体操等を行い、関節可動域を広げ、「美術」の授業が始まることを意識し、生徒が活動に主体的に関わるための準備を行う。</p> <p>※選択肢を視覚的・聴覚的・触覚的な情報で提示し、生徒の考えを引き出す。</p> <p>・提示操作方法（タブレット端末・プロジェクター・印刷物）を生徒と相談して決める。</p> <p>様々な色・大きさのシルエットを提示する。（「大きい？小さい？ どっちがいい？」）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 色画用紙の上で作品画像を回しながら、身近なものや風景（学校内）画像も参考にして、形・大きさ・色から何に見えるか考える。 「どこに置いてみる？」 「どっち向きにする？」 「あなたはどこ？」 作品画像の方向が決まったら、色画用紙に置かれた作品をタブレット端末等で記録しておく。 	<p>「どのくらい大きい？これくらい？それとも…」 （プロジェクターで示すタブレット端末画面上で本人の画像と並べる、印刷物を持つ等して、具体的に大きさや色を提示して決めていく。）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が選んだ方法で操作しながら作品（《ヤナイハラ I》）画像の方向を考える。 操作が難しい場合は、教員が操作し提示しながら生徒の考えを聞き取っていく。 紙（ボード）の場合、生徒の持ち方や動きから連想して、具体的に選択肢を挙げて聞き取っていく。 生徒の身近なものの画像や風景画像に作品（《ヤナイハラ I》）画像を乗せたり合成したりしながら考えを深めていく。
2 限	<p>⑤コラージュ作品 I</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品（《ヤナイハラ I》）画像を持って実際の場所に行きポーズをとり撮影、タブレット端末でコラージュするなどして何に見えるか表現する。 （注）別紙参照 作品イメージ画像 画像でのコラージュ作品か、色画用紙でのコラージュ作品か、生徒が選ぶ。（表現しているものは同じ） <p>⑥発表（ふりかえり）と次回の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> コラージュ作品 I を発表する。 「さあ、どうなりましたか？」 「何に見えるかな？」 <p>⑦校外学習（美術館）の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所や活動内容、順番、注意事項などを知る。 「みんなが考えた〇〇や〇〇・・・が美術館にあります！」 「みんなで見に行きましょう」 「美術館はこんなところなんですね」等 	<ul style="list-style-type: none"> ST と生徒との個別活動（校内⇔美術室） <p>（美術室 全体指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末とプロジェクターで制作や教員とのやりとりの様子を交えて ST と共に発表する。 （どのように大きさ・色・背景を選んだかなど） 美術館内の画像や簡単なイラストを用いてプレゼンテーションソフトで提示する。
3 限	<p>【美術館 講堂】</p> <p>①美術館オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ 美術館の楽しいところ紹介 「アートを体験するところです！」 「かわいい、きれい、こわい、ぐちゃぐちゃ、キラキラ、大きい、ちいさい・・・いろんなものがあります」 「それを見たり、触ったり、聞いたり、感じたりして楽しめます」 	<ul style="list-style-type: none"> 館内施設の紹介や見どころ、生徒の関心が高そうな美術作品の紹介を行う。

	<p>②コラージュ作品Ⅰの振り返り（発表）</p> <p>「みんなよく考えましたね」</p> <p>「こう持って。こう使うんでしょ？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品のシルエットと各生徒がどのようにそれを捉えていたのかを思い出すために、コラージュ画像を行動プロジェクターに映す。思い出し易いようにコラージュで表現しているものを教員が動きで示唆したり、制作の様子を振り返ったりする。
<p>4 限</p>	<p>③《ヤナイハラⅠ》のレプリカ鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> レプリカを回転する台に乗せ、まわす。 触れる。 <p>「実はこんな感じです」</p> <p>「本物ではありませんがほとんどいっしょです」「くるくる、どうぞ」「さわってみて」</p> <ul style="list-style-type: none"> コラージュ作品Ⅰとレプリカが同じ方向や傾きになるよう提示し、見比べる。 <p>「あなたの作品に登場してもらいましょう」</p> <p>④美術館でのマナーについて</p> <p>【美術館 展示室】</p> <p>⑤《ヤナイハラⅠ》鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 《ヤナイハラⅠ》鑑賞 <p>「今から本物を見に行きます！」</p> <p>「探してみてください。見つけたら先生におしえてね」</p> <p>「やっと見つけたね」</p> <p>「名前がありました《ヤナイハラⅠ》といいます」</p> <p>『見つけた！マイ・ヤナイハラ』はこのことだったんですね」</p> <p>「この《ヤナイハラⅠ》（実物）をみてみよう」</p> <p>⑥コラージュ作品Ⅱ制作</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品画像（切り抜き・色は元の作品のまま）と《ヤナイハラⅠ》（実物）を並べて見て、表しているものということを確認する。 背景の写真または色画用紙を選ぶ。 作品画像（切り抜き・色は元の作品のまま）を背景の上に置く。 <p>「《ヤナイハラⅠ》をまた置いてみよう！」</p> <p>「どんな写真や色がいいかな？」</p> <p>「くるくる・・・どっちに向けようかな？」</p> <p>「この《ヤナイハラⅠ》（実物）をみてみよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平面として提示していたものが、実際は立体であることを実感し易いように、レプリカ作品を回転させて提示したり、触ったりする活動を設定している。 色や形（立体）が異なるコラージュ作品とレプリカや《ヤナイハラⅠ》とが繋がるように、教員が生徒に確認しながら<u>学芸員の方がレプリカを持ち</u>、コラージュ画像の向きや角度に合わせる。 「大切なものだから、作品には触れない」などのマナーを伝える。 展示室の空間や雰囲気、作品の存在感などを味わえるように、まずは言葉かけを行わず、生徒の反応や様子を注意して観察する。 作品の側面に回ったり、下から覗き込んだりなどいろいろな方向から見るよう、教員の言葉かけや動きで促す。 各生徒がコラージュ制作Ⅰに使用した背景画像、色画用紙から、背景を選ぶよう伝える。 生徒により画像にするか、無地の色画用紙にするか2択で問う等提示方法を工夫する。 無地の色画用紙であれば、展示室の壁や雰囲気に近い色（赤・白・クリーム色・グレー・紺など）と生徒がコラージュⅠで使用した背景色を用意する。 《ヤナイハラⅠ》を見るよう促すが、作品画像（切り抜き）の向きや位置は、生徒の意見を優先する。作品の天地を誘導しない。 <p>※コラージュ作品Ⅰとの選択の変化に着目する。</p> <p>背景の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 色画用紙 <p>⇒イメージの変化。作品（物体）として認識か。</p>

	<p>「なるほど！ すてきですね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コラージュ I で使用した色画用紙 ⇒イメージは変わっていない。 ・コラージュ I で使用した背景画像 ⇒イメージは変わっていない。 <p>作品画像の向き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天地が正しい。 ⇒イメージの変化。作品（物体）として認識か。 ・コラージュ I の向きと同じ。 ⇒イメージは変わっていない。 ・コラージュ I と向きは異なるが、天地は自由。 ⇒イメージの変化 <p>・作品画像（切り抜き）を背景に置けたら、全体をタブレット端末で撮影し、記録する。テープ等で仮止めする。</p> <p>※ST は、作品を見たときの様子、生徒とのやりとり（イメージの深まり等）を記憶・記録しておく。</p>
<p>5 限</p>	<p>【学校】</p> <p>①出欠確認及び健康観察</p> <p>②説明</p> <p>③制作前の準備運動「ちょきちょきダンス♪」「にぎにぎスクイズ」</p> <p>④校外学習のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館での活動の様子を動画・画像で振り返る。 <p>⑤コラージュ作品 I と II の発表</p> <p>「みんなが美術館で作った作品を発表します」</p> <p>「後ろの写真（色）やヤナイハラの向きが変わったんだね」</p> <p>「そういう理由でこの色にしたんだね」</p> <p>「〇〇さんは〇〇にずっと見えているんだね」</p> <p>⑥美術館の活動についての発表（感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の活動で楽しかったことをひとつ発表する。 <p>⑦まとめ</p> <p>「作品展ではみんなであの美術館みたいなアートな展示を作ろう！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館で担当していたST は、レプリカに触れたり作品を見たりしたときの反応など様子を伝える。 ・どのように背景や作品の方向を決めたのか、理由などST が補足する。 ・生徒のそれぞれのイメージや理由を、具体的に言葉にして伝え、ほめる。 <p>・《ヤナイハラ I》との出会い前後の学びをふりかえり、作品展にコラージュ I と II に作者のひとことや美術館でのお気に入りの写真を添えて展示していくことを予告する。（次の学習活動へのつながりを示唆）</p>

(注) 2限 コラージュ作品 I 作品イメージ



10. 体験的な活動を効果的に取り入れるための取り組みについて

【保護者・家庭との連携】

生徒の美術館への期待感や関心を高めるため、館内施設の利用（食事・買い物）の機会を設定する。

レストランメニュー表・ミュージアムショップ商品例等をプリントに記載し、事前に配付することで、生徒が保護者と美術館での活動について話す機会を持てるようにする。日常生活の中で美術作品や美術館について考えたり、学習の過程や成果を共有したりできるようにする。

【美術館での活動例】

○レストラン

- ・外食でのマナーを学んだり、楽しくおいしい食事をしたりする。
- ・会計の体験をする。

○ミュージアムショップ

- ・美術関連の商品を見たり触ったりすることで、美術に対する興味を広げ、新たな「好きなもの」を見つける。
- ・買い物体験をする。

○チラシ

- ・気になるチラシ（展覧会案内）を選んで持ち帰る。
- ・次回の授業時に持ち帰ったチラシを発表し、生徒自身の関心の広がり等を確認する。

指導案作成：笠岡亜由美、川田和子